

2020年 新春を迎え、闘う意思

皆様 新年明けましておめでとうございます。組合員の皆様には、健やかに新春をお迎えになったことと存じます。

さて、昨年開催されたラグビーワールドカップの余韻は、年末・年始においても「つながっていた」と感じました。私は、ラグビーの「にわかファン」の一人ではありますが、自分の記憶の中にあるラグビーに関する記憶で「一番鮮明に残っているのは何か」ということを考えてみました。そして、思い浮かんだのが「北の鉄人」という言葉です。

1985年（S.60）1月（当時24歳）、新日鉄釜石が史上初の7連覇をかけて臨んだ社会人ラグビーの決勝、新日鉄釜石 vs 神戸製鋼の試合が行われました。

実は新日鉄釜石は、準決勝の東芝府中線で大苦戦をし、やっとの思いで引き分けに持ち込み、抽選で勝って、決勝に進んでいました。その苦しい闘いを経て、決勝戦において「1つの伝説」が生まれました。

それは、「釜石自陣ゴール近くからNOホイッスルで13人がパスをつなぎ、トライをする」という「伝説の13人つなぎトライ」と呼ばれるものです。

ラグビーは、ボールを持ったら「前へ」「前へ」と突進しながら、ボールをつなぐことは、ラグビーの神髄と言えるものだと思います。

私は、ここに大事なものを学ぶ機会をいただいたと捉えています。

国内外を問わず、大きな環境の変化の中で、様々な場面・局面で求められているのが、「つなぐ」というキーワードではないでしょうか。

親から子へ、先輩から後輩へ、様々な立場や組織から他の団体へ、現象だけでなく「人の思い」をつなげていくことが極めて重要な時代になったと思います。

伝説の「13人トライ」もただ単にボールをつないただけではなく、一人一人の思いをボールに込めて、つないだ結果が、この伝説のトライを実現させたものと思います。

この「思いをつなぐ」こと、あるいは「つながる」と「働くこと」オーバーラップさせて見ました。

私たちが「働く」ということは、物質的なニーズを満たし、貧困を回避し、ディーセント・ライフ（人間らしい生活）を築く手段です。

「働く」ことは、時には、アイデンティティや組織への帰属意識、目的意識を与えてくれ、私たちに明るい未来像を垣間見せてくれたりもします。

また、「働く」ことは、人と人とのつながりや交流によって、ネットワークを形成し、働く者の社会的な結束・団結を促し、社会における共同体としての重要性も持ち合わせています。

つまり、「働く」ことは「つながる」ことであり、「つながり合う」ことで「前へ、前へ」と進みます。

今、急速に進む人口減少と超少子高齢化の大波の中で、IoTやビッグデータ、人工知能（AI）など、第4次産業革命という「新たな原動力」が、「働き方の世界」を変えようとしています。

この人工知能、自動化、ロボティクスなどのテクノロジーの進歩は、新たな仕事を創り出す一方で、消滅する仕事を創り出してしまいかもしれません。

あるいは、今日のスキルは明日の仕事に通用しなくなり、新たに習得したスキルも瞬く間に時代遅れになる、そんな労働環境を創り出すかもしれません。

しかし、私たちは、このような時代が差し迫ろうとも、労働組合として「働くことの未来」のために、このことを敢えて好機・チャンスととらえ、「人と人がつながる」ことによる「人間中心・人間主導」の考えをど真ん中に据え、「働くことを軸とする安心社会」の実現に向けて、歩みを進めたいと思います。

一方、政治に関わっても、先ほど述べた考え方と根幹の部分で連結した考えを持っています。

今、野党の合流に関する協議が行われていますが、連合としてのスタンスは、昨年12月3日神津会長が述べたように「二大政党的運営を理想とする連合からすれば、究極的には望ましい姿と言える。

しかしこのことが、間違っても再びバラバラ感・ガタガタ感を招来することがあってはならない。既に共同会派に向けた動きの中で要請してきたことと同じく、お互いの立場を尊重しつつ、丁寧に物事を進めていただきたい」ということです。

連合大分は、衆議院・参議院併せて6人の国会議員を推薦してきました。そして、今回、足立信也参議院議員と吉良州司衆議院議員が連合大分議員懇に加入していただきました。

今の国政を俯瞰した時に、強引かつ一方的な法案審議の進め方に象徴される独善的な国会運営や真実を究明しようとせず、逆に都合の悪いことは隠ぺい・改ざん・破棄する姿勢に対して、不安視、疑問視する国民は多数いらっしゃると思います。

あるいは、核兵器廃絶の問題、地球温暖化の問題、男女平等やジェンダーやLGBTの課題、少子・高齢化人口減少対策などの重要な政治課題が先送りされていることから、現状の政治体制で「了」とすることにはなりません。

連合大分は、解散総選挙となれば、推薦候補者の勝利に向けて、構成組織と地域協議会をかみ合わせ、候補者と組合員をつなぎ、組合員と組合員をつなぎ、組合員と県民をつなぎ、候補者と県民をつなぐ、地道な取り組みを5万組合員総がかりで取り組む所存です。

そして、小選挙区での勝利を勝ち取らなければならないと考えています。

冒頭に「北の鉄人」新日鉄釜石の話をしました。無敵の強さを誇ったこのチームは、センターの森重隆さんやスクラムハーフの松尾雄治さんといった大学時代から活躍していたゲームメーカーの存在が取りざたされますが、チームの多数を占めていたのは、プロップの洞口孝治さんをはじめとする地元の高校を卒業した選手たちであったことが、本当の強さの秘密だったことは言うに及ばないことです。

連合大分の底力も、今現場最前線で働く一人ひとりの組合員に支えられています。

私たちは、労働組合としての自信と誇りをもち、結成 30 年の節目を機に、「私たちが果たすべき社会的責任や求められているものは何か」を今一度見つめ直していきたいと思ひます。

そして、その社会的責任において、基本的人権が尊重され、年齢や性別、障がいの有無、国籍などにかかわらず多様性を受け入れ、互いに認め支え合い、「誰一人取り残されない」社会の実現をめざし、その一翼を担っていききたいと思ひます。

ともにがんばろう！

